

# 広島大大学院グループ研究



加藤範久教授

タコを食べると大腸内の善玉菌が増えて悪玉菌が減ることを、広島大大学院生物圏科学研究科（東広島市）の加藤範久教授（分子栄養学）のグループが突き止めた。大腸がんや大腸炎の予防につながる可能性があり、加藤教授は「タコが健康に良いことをPRすれば消費拡大も期待できる」と話している。

(山田祐)

# 大腸がん予防 タコ効果期待

## ラット実験 食べる と 悪玉菌減少

加藤教授たちは、乾燥させて粉末にしたタコを餌に混ぜ、7匹のラットに3週間連続して与える実験をし、大腸内の善玉菌が約3倍に増え、悪玉菌が約3割減ったことを確認した。腸内で悪玉菌が増えると、がんなどを引き起こす物質が増える可能性があると考えられている。

現在、大腸に作用した成分を分析中で、加藤教授はタンパク質が有力とみている。同大は2009年8月、タコの産地である三原市の三原商工会議所からタコと健康との関係の調査を依頼され、地域貢献研究事業の一環として研究していた。

加藤教授は「大腸に作用する成分を特定できれば、製菓の分野

にも生かせる」、商議す。研究結果は28日、同所経営指導課の森川英明係長は「タコが大の東広島キャンパスで健康に良い点をアピールし、新商品の開発成果発表会で報告すにもつなげたい」と語る。

## 海外学生らヒロシマ学

英語を使ってヒロシマを学ぶ広島市立大（安佐南区）の夏期集中講座「HIROSHI IMA and PEACE」が27日、同大で始まった。米英や韓国、イラクなど海外7カ国の学生を含む51人が参加。8月6日までの日程で、被爆体験を聞いたり平和について討論したりする。初日はオリエンテーションで「あなたにとって平和とは」と題し、10班に分かれて討論した。各自が画用紙に地



平和についての考えを話し合う学生